

様式 1

研究報告書（平成 28 年度）

提出者 松永 歩

提出年月日 平成 29 年 3 月 30 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 近代日本における地理的想像力の拡大と帰属意識の形成—教育という観点に着目して

英文 Expansion of Geographical Imagination and Formation of a sense of Belonging in Meiji Era: Focusing on Education

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、近代日本の教育政策および教育制度に着目し、それらが人々の地理的想像力の拡大をもたらしたこと、それにもなう帰属意識の形成過程について歴史社会学の視点で再考することを目的とする。

上記の点を考察するにあたり、本研究では学校教育の中でも修学旅行に着目して研究を行う。修学旅行は、学校という建物を、さらには自分たちの住む地域を飛び出し、児童や学生たちが自分たちの目で他の地域を見て、体験できる学びの場である。修学旅行の展開は交通網の発展とともにその目的地は自分たちの住む場所から遠く離れ、さまざまな移動手段を使用するようになる。そのような意味でも修学旅行は、子供達にとって教員の言葉や教科書・本だけでは得難い、その時代を学ぶ特別な体験である。

本研究では、その第一歩として 1897 年熊本師範学校の沖縄修学旅行について取り上げた。熊本師範学校の沖縄滞在中、熊本と沖縄の両師範学校はその大半を一緒に過ごし、交流を行っていた。熊本師範学生の記した日記および教員が作成した『沖縄縣旅行日誌』これら 2 点を取り上げ、学生たちが沖縄を訪れた際にどのような印象をもったのか、そしてその体験が持ちかえられた際、どのように語られ、記録されたのかを考察する。

【成果の概要】 (800字程度)

まず、2016年8月第3回学際融合コロキウムにおいて、地理的想像力の拡大と帰属意識の形成について、地理教育と修学旅行について研究報告を行った。

12月には、これまで研究を行ってきた近代沖縄における基礎的テキストである『沖縄対話』について、何が取り上げられ、どのように書かれているのか、その内容について国際日本学会において研究発表を行った。

また、今年度は、修学旅行の資料調査が進展する足がかりとなる一年となった。9月に熊本大学文書館で資料調査を行なった。熊本大学では、教育学部の前身である熊本師範学校の当時の史料は見つからなかったが、師範学校史についての文献及び当時の地元の新聞に掲載されている記事情報について資料を提供していただいた。

また、追加調査して国会図書館に行き、不足新聞記事に関して収集を行なった。さらには、教員の作成した『沖縄県旅行日誌』の所持者である井口氏を訪ね、資料に関して、また作成者と思われる当時の教員に関する聞き取りを行った。これらの調査や資料を元に現在論文を作成中である。

【通信欄】